

1 学校教育目標

ともに 学び ともに 遊ぶ
 ○やさしい子 (重点目標) ○考える子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・児童にとって安心、安全な学校 ・保護者や地域とともに共創する学校	・確かな学力と豊かな心、健やかな体を育む学校
○児童・生徒像	・基礎・基本が定着し、学習意欲に満ちた児童 ・心身ともにたくましく挑戦する児童	・規範意識と協働の精神をもち、思いやりのある児童
○教師像	・児童に寄り添い、やさしさと厳しさのある教師 ・教育の専門職としての自覚と誇りをもつ教師	・常に自らの指導力を高めようとする教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

明るく素直な児童が多く、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で教育活動を行っている。基本的な生活習慣や学習習慣は家庭と連携して身に付けている児童が増えているが個人差がある。教職員は、一丸となって教育活動を行っている。OJTを有効に機能させ、教員一人一人の指導力を高めるとともに、学校全体の組織力を高めている。PTAや保護者、地域の方々は学校の教育活動を理解してくださり協力的である。

〈前年度の成果と課題〉

- 「わかるまで、できるまで、あきらめずにやり遂げる」をモットーに授業改善を推進し、問題解決型学習を通して、基礎的・基本的な学力の定着に努め成果も表れてきている。しかし、つまずきが解消されていない児童も見られる。教師一人一人の授業力の向上に努めるとともに、つまずきの解消に向けた補充学習の充実をさらにすすめていく必要がある。
- 児童主体のいじめ防止活動「TKR」は、代表委員会に位置づけ計画的に話し合いが行われ、「元気、勇気、明るい子、優しく仲良く助け合おう」の新しいスローガンも決まった。また、児童の実態に合わせて、活動内容の見直しを行った。トラブルが深刻ないじめに発展することはなかった。
- 体力向上については、課題であった立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げについて環境を整えた。特に重点をおいたボール投げは、3つの場を設定し、カードを活用して取り組んだ。今後は、持久力や瞬発力、リズム感の向上を図る取組を加え、バランスのとれた体力向上をめざしていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間 (年度) R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	心の教育の推進			○	○	○
3	健康な子供の育成			○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業改善と授業力の向上		区学力調査4月の学校全体目標 国語 85% 算数 85% 2月の定着度確認テスト 学校全体目標通過率 国語 75% 算数 75%		区学力調査4月の全体目標値 通過率 国語 78.2% 算数 80.2% 2月の定着度確認テスト 学校全体目標通過率 国語 74.8% 算数 79.1%		<ul style="list-style-type: none"> 4月調査において国語・算数ともに達成基準を下回った。国語では読解と書くことの項目が課題となる。 学習の定着状況と具体的な取り組みは6(1)を参照。 		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	ICTを活用した授業力向上	全教科	通年	児童一人一台のタブレット端末を使用した授業の推進	授業観察	100%	<ul style="list-style-type: none"> 全教員がタブレットPCを活用して、今まで使用していた視覚的な教材提示以外にも、googleの様々なツールを活用した。協働的な学習をすすめることができた。オンラインドリル(キュビナ)の活用方法や頻度の基準を設定し学校全体で推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員がICTを有効に活用できるよう校内研究や研修を通じて、学年だけでなく学校全体で使用する仕方について情報共有をしていく。 	◎

継続	授業力 OJT	全教科	通年	教科担当教員による足立スタンダードの確認と区教育研究会の内容の共有、ICT活用方法の伝達	授業観察	100%	・教科担当による足立スタンダードの確認と区教育研究会の内容共有、ICT活用に関する伝達や研修をすることができた。	・区教育研究会の情報共有が限られた教科、単元になっている。全教科において実施できるように研修の機会をつくる。	○
継続	ICTを活用した授業	全教科	通年	デジタル教科書の活用・書画カメラの活用・AIドリルの活用・プレゼンテーション・プログラミング	週案点検 授業観察	100%	・算数のデジタル教科書は児童の端末に配備され、授業で使用する機会が増えた。また、ジャムボードやスライドといったツールの使用が可能になりグループワークで活用することができた。	・教員間で使用頻度に多少の差がある。校内研究や研修を通じて、学年だけでなく学校全体で使用の仕方について情報共有をしていく。	◎
継続	読書貯金活動	国語他	通年	足立読書通帳の活用・年間 低学年 50冊以上 中、高学年 30冊以上	読書通帳の点検	100%	低学年 61.2冊 中、高学年 30.6冊	・今後は、学年に応じた本の選び方を指導する。	◎
継続	少人数チーム研究	全教科	通年	学年・専科グループによる校内研究の推進、全員研究授業を実施	授業観察 行動観察	100%	100%実施	・学年ごとに教材研究をしているが、指導案検討の時間を十分に確保できていない。学力向上グループを中心に計画的に実施する。	○
継続	調べる学習	全教科	4月から9月	3年生以上が調べる学習コンクールに出品参加	作品点検	出品率95%以上	調べる学習コンクール出品100%	・今年度の目標を達成できている。継続して事前指導を行っていく。	◎
継続	立ち戻り学習教室	国語 算数	週1回	つまずき解消のための補習補充指導を実施	2月校内調査	通過率75%以上	国語74.8% 算数79.1%	・学年、教科によって差があった。分析結果をもとに個に応じた補充を行い、つまずきを解消する。	○

継続	漢字・計算 検定	国語 算数	各月 1回	間違いやすい漢字・計算リ ストを作成し、テストを実 施	月末にテスト を実施	合格者85% 以上	合格者90.2%	・支援が必要な児童 に個別の課題やワー クを出し、全ての児 童が学習の基礎を定 着し、達成感を味わ えるようにする。	○
継続	自主学習	全教科	通年	1日1ページ・めあてと振 り返り・アドバイス	ノートの点検	90%以上	90%以上の実施、 点検ができた。低学 年では2年生から少 しずつ自主学習につ ながるような家庭学 習を開始した。中学 年では授業の復習や 計算、漢字の基礎の 学習、高学年ではそ れに加えて調べ学習 を行った。	・自主学習の内容に 差があるので、課題 の例や内容の例を具 体的に指導する。	○

重点的な取組事項－2		心の教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりの気持ちと態度の育成		・3回のいじめアンケート調査において対応後全て解決。	・いじめアンケート調査にて対応後、全て解決。深刻ないじめに発展するケースはなかった。	・傾向として、同一児童から、複数の相談が多い。該当児童の支援をこれからも続けていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
児童によるいじめ防止活動	・児童が自主的にいじめ防止活動を実践	・いじめ防止意欲の向上 朝会後のスローガンコール、辰沼しぐさの実践 ・全校で楽しめるイベントの計画・実施、新たな取組の計画	・全校が楽しめるイベントやポスターの募集、いじめ防止パレード、合言葉コールを行うことができた。自主的に計画を立て、実行することができ、いじめの防止を広く呼びかけることができた。	・深刻ないじめに発展したケースはなかった。トラブルはあったがその都度解決することができた。	○

気持ちのよいあいさつの推進 規範意識の向上	・児童アンケートで、あいさつ、規範意識に関する項目の肯定的評価が80%以上	・「あいさつ・返事・靴そろえ」を年間通して指導 ・PTA、地域と連携したあいさつ運動の実施	・年間を通じた指導と、ふれあい月間での重点的な指導により、自分からの挨拶、返事の意識が高まり、靴揃えができるようになった。 ・規範意識に対する肯定的な評価は91.7%であった。	・さらに意識を高め、気持ちのよい挨拶が増えるよう、指導を継続していく。	○
交流活動の充実	・各学年異年齢交流を2回以上実施 ・特別支援学級と通常級の交流活動を実施	・年間計画を立て、各学年異学年、異校種の交流を実施 ・特別支援学級と通常級の交流活動を実施	・新型コロナウイルスの感染拡大により、予定通り実施できないこともあったが、全ての学年で年1回以上の交流活動ができた。 ・異学年で交流することで、他学年のよさを互いに気付き、楽しむことができた。	・計画的に交流を進め、実施できることを増やし、活動を充実させる。	○

重点的な取組事項－3

健康な子供の育成

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
運動に親しみ、基礎体力をつける		運動が好きといえる子85%以上	・運動委員会が休み時間に運動遊びの場を提供する辰沼わくわくパークに多くの児童が参加し、運動遊びを楽しむことができた。 ・運動が好き、どちらかという好きと回答した児童は88.4%であった。	・休み時間の校庭での運動遊びがさらに充実するよう、遊びの紹介を積極的に行う。 ・体育授業のさらなる充実を目指し、校内での研修を計画的に行う。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
計画的な体力づくり 基礎体力の向上	・学年ごとに数値目標を設定し、持久走、短なわ、長なわ週間の実施。数値目標を上回る児童80%以上	・年間を通して、短なわ、長なわに取り組む ・ボール投げ、立ち幅跳び、反復横跳びの場を継続的に活用	・体育時に短なわを使った準備運動を年間を通して実施した。持久走や長なわの取組については、期間を設定し重点的に行った。 ・運動の場を設置し、20分休みや体育時に使用することができた。 ・学年ごとの数値目標を上回った児童は50%であった。	・今後もなわ跳びに取り組む、持久力や瞬発力、リズム感の向上を図っていく。運動の場については、学級により使用回数が異なるため、運動委員会と連携し、休み時間を使って活用していくようにする。	○

健康な生活習慣の確立	・早寝・早起き・朝ごはんを実施している児童90%以上	・長期休業明けに生活振り返りアンケートを実施 ・家庭と連携した生活リズムの定着	・長期休業明けに生活習慣アンケートを実施。次の結果となった。 朝食を毎日食べている 95% 早寝、早起き 70% ・保健便りで、アンケート結果とともに、生活リズムの大切さを伝え、家庭の意識を高められるようにした。	・次年度はアンケート結果を個人面談で保護者に伝え、チェックシートを活用し、生活リズムについて児童の意識を高める。家庭との連携を強め、より効果的な指導をねらう。	△
体育科の授業力向上	・校内体育研修を5回実施	・実技研修を実施 ・年間指導計画を改善 ・体育の環境整備を推進	・教員の授業力を向上させるために「体づくり」や「ゲーム」をはじめとした体育実技研修を実施した。また、「器械運動」では講師を招いて研修を行った。環境整備を計画的に行うことができた。	・次年度も計画的に研修を行い、教員の意識と指導力を向上させ、校内全体で統一した指導が行えるようにする。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

今年度は一人一台端末の配備により ICT を活用した学習が一段と充実した。Google の各種ツールを活用した授業により児童の個別最適な学習がすすみ、グループワークの充実が図られた。AI ドリルの導入により、家庭学習や補充学習に有効に活用することもできるようになった。

一方、今年度の区調査の結果では、国語科の「書く力」に課題があることが分かった。前年度までの基礎的な知識・技能の向上に向けた取組に加え、自分の考えを文章に表すなどの言語活動を多く取り入れて、各教科の活動や振り返りの内容で書く力の向上を図る。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

登校時のあいさつ運動にご協力いただきありがとうございます。自分から気持ちのよい挨拶をする子供が増えてきました。また、子供たちのマナー向上や安全・安心な学校づくりに効果的な取組として大きな成果をあげています。子供の生活習慣と学力・体力の定着には関連があります。今後も「早ね・早起き・朝ごはん」や「家庭学習の習慣」についてご協力をお願いいたします。子供たちの健全育成に向けて、学校と家庭、地域が連携して取り組んでいきたいと考えます。よろしく願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

特別支援教育を意識し、「ユニバーサルデザイン化」を進め、環境を整え授業実践をしている。昨年度4月に開設された特別支援学級「つばさ」は2年目を迎え、現在8名の児童が在籍している。今後も一層特別支援教育の充実を図っていく。児童主体のいじめ防止活動をはじめとする「いじめ防止教育」は11年目を迎えた。今年度は、児童が自主的に計画を立て、いじめ防止を広く呼びかけることができた。今後も持続可能な取組とするために児童と一緒に活動内容の見直しを行い、安全と安心を確立して、児童が楽しく充実した学校生活を送れるようにしていく。教職員の働き方改革を推進していくためにも、学校が組織として効果的・効率的に機能するように組織改善に取り組む。そして、教員が子供と向き合う時間やゆとりを確保していく。